

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

1 工場概要

- ▶ 住所 : 岐阜県美濃市長瀬434番地
- ▶ 従業員数 : 19名
- ▶ 敷地面積 : 8,227m²



2 事業概要

- ▶ 事業内容
 - ・プラスチック製品の製造加工ならびに販売
 - ・上記に付帯する一切の業務

- ▶ 主要製品

美濃工場

- ・ポリスチレンシート
- ・ポリエチレンシート
- ・ポリスチレンプレート



3 工場変遷

- | | |
|-------------|---|
| 昭和27年11月26日 | 名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。 |
| 昭和31年 8月 | 硬質塩化ビニル管製造販売を開始。 |
| 昭和36年10月 | 本社及び工場を小牧市に移転。 |
| 昭和39年 7月 | 硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。 |
| 平成 2年10月 | 岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。 |
| 平成10年12月 | ISO9002審査登録 |
| 平成12年10月 | ISO14001審査登録 |
| 平成13年 3月 | 美濃工場が岐阜県環境優良事業所となる |
| 平成14年12月 | ISO9001:2000移行認証取得 |
| 平成17年 7月 | ISO14001:2004移行認証取得 |
| 平成21年 7月 | ISO9001:2008移行認証取得 |

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

4 環境方針

▶ ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリエチレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。

- ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。
 - ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。
 - ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。
- 2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
- 3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。

- ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
- ・この環境方針は、一般の人でも入手できます。

平成23年4月1日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
住田 和正

▶ ISO認証取得状況

平成12年10月 ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)
平成13年10月 ISO14001第1回定期維持審査実施
平成14年10月 ISO14001第2回定期維持審査実施
平成15年 9月 ISO14001第1回更新審査実施
平成16年 7月 ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成17年 7月 ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成18年 7月 ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成19年 7月 ISO9001第3回更新審査、ISO14001第2回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成20年 7月 ISO9001第3回-1定期維持審査、ISO14001第2回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成21年 7月 ISO9001第4回更新審査、ISO14001第3回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成22年 7月 ISO9001第4回-1定期維持審査、ISO14001第3回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成23年 7月 ISO9001第4回-2定期維持審査、ISO14001第3回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2010年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO2の削減	CO2排出原単位	2008	▲4%	26%	×	生産金額減少のため
		CO2排出量	2008	▲4%	3%	×	設備増加のため
	物流のCO2削減	CO2排出原単位	2008	▲2%	▲74%	◎	
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲4%	▲11%	◎	
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	5.4%	×	有価物量減少のため
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲2%	▲63%	◎	
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲4%	—	—	対象物質の取扱なし

※自己評価の基準 ◎:目標超過達成 ○:目標達成 ×:目標未達成

注)環境保全中期計画のCO2排出量実績値の算定の際は、2008年度の単位発熱量及びCO2排出係数を使用しています。

6 環境会計

① 環境投資

2010年度: 4080 万円

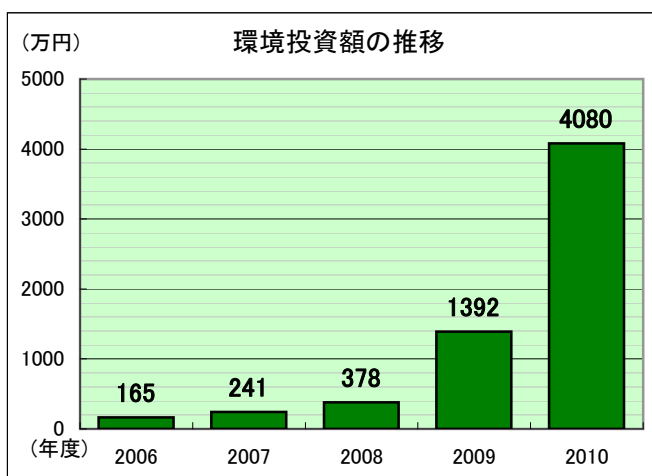
2006年度: 粉砕機に防音BOXを3台導入等。

2007年度: 客先使用済製品回収用BOX。人感センサ付照明。粉砕機防音BOX1台導入等。

2008年度: 6号押出機更新(DC→インバータ化)。雨水配管設置工事(雨水と工場排水の分別)。

2009年度: 油煙回収装置5ライン分増設。工場排水管路改造等。

2010年度: 自動肉厚測定装置、再生ペレット製造装置導入等。



日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

② 環境保全効果

美濃工場

効果の内容	効 果	2009年度	2010年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	43,238	42,914	▲ 324	-0.7%
	水使用量(m ³)	36,995	34,563	▲ 2,432	-6.6%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	1,973	2,041	68	3.4%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	—	—	—	—
	廃棄物排出量(t)	17.7	22.7	5.0	28.2%
	廃棄物埋立量(t)	8.4	7.4	▲ 1.0	-11.9%

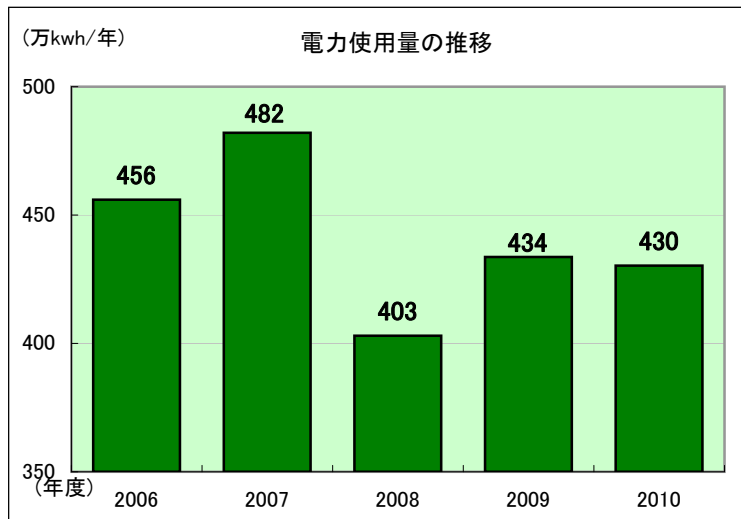
2009年度：工場排水管路改造工事により、工場排水を温水と冷水に分別させて、冷水を再利用させたことで、水使用量を大幅に削減することができました。

2010年度：待機電力等の削減により、エネルギー使用量を削減することが出来ました。

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

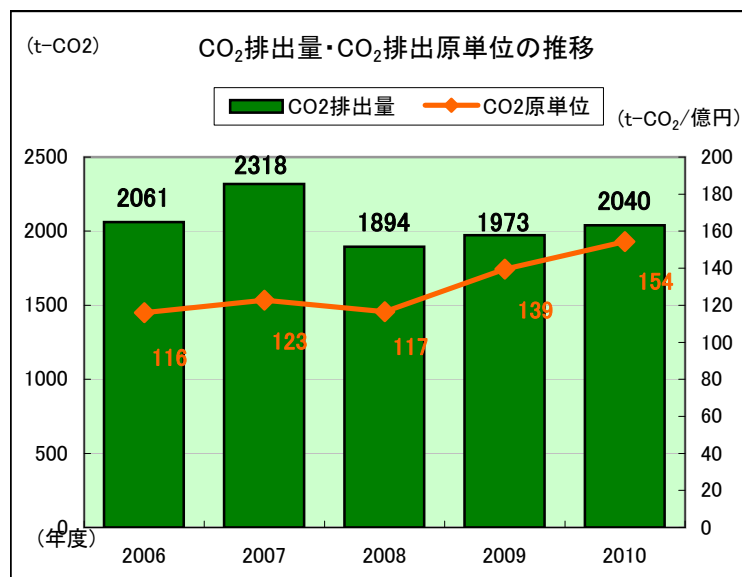
7 環境パフォーマンス

- ① 地球温暖化の防止
省エネルギー活動
電力使用量の削減



CO₂排出量の削減

※車両燃料からの排出量を含んでいません。



日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

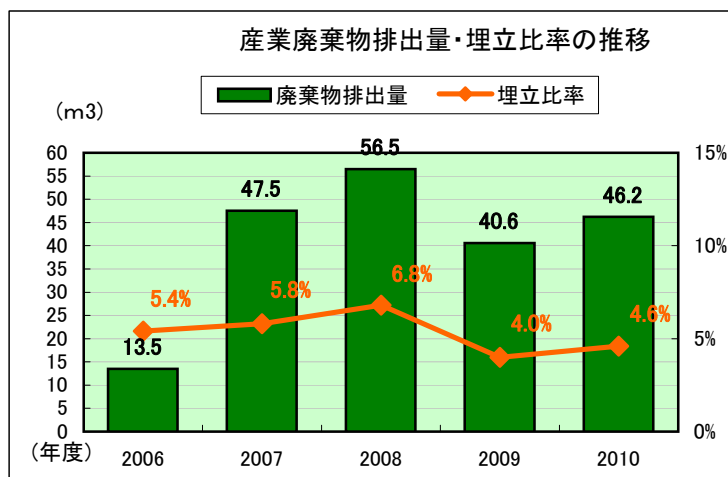
② 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

2005年度よりシート屑の有価物化を実施しております。

現在、廃棄物の内容を確認して、リサイクルに廻すよう分別しています。

2010年度より廃油を有価物化しました。



ゼロ・エミッション化

廃棄物削減を目的にリサイクルを推進し、今期はリサイクル率95%以上を目標に取り組んでおります。

注: 埋立比率(%) = (直接埋立量 + 中間処理後最終埋立量) ÷ (有価物量 + 廃棄物排出量)

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

③ 有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

美濃工場

当工場において届出対象となる物質はありませんでした。

8 環境コミュニケーション

① 地域の皆様との交流

美濃工場

名 称 長瀬地区町内春祭りに缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付
日 付 平成22年4月3日

名 称 長瀬地区盆踊りに缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付
日 付 平成22年8月9日

② 地域美化活動

美濃工場

名 称 工場周り側溝、清掃、草むしり活動
日 付 平成22年7月2日
参加人数 日本プラスチック工業(2名)

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

9 サイトデータ～美濃工場

▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	1,107
----------	---------	-------

水使用量	万m ³	3.5
------	-----------------	-----

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,041
---------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SO _x	総量規制・ K値規制ともにm ³ N/h	ばい煙発生施設なし		
	NO _x	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm			
	ばいじん	g/m ³ N			

排水量	公共用水域	万m ³	3.5
	下水道	万m ³	—
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

2010年6月15日実施

排水	放流先	項目	単位	排水口名:工場排水	
				規制値	測定値
	公共用水域	pH	—	5.8～8.6	7.0
		BOD	mg/ℓ	160	0.7
		COD	mg/ℓ	160	0.5
		SS	mg/ℓ	200	4.0
		N-ヘキサン	mg/ℓ	5	1.0
		鉛及びその化合物	mg/ℓ	—	—
		亜鉛	mg/ℓ	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
	下水道	pH	—	—	—
		BOD	mg/ℓ	—	—
		COD	mg/ℓ	—	—
		SS	mg/ℓ	—	—

廃棄物排出量	t	22.7
埋立比率	%	4.6